

J A全中 Monthly Report

11月

併せてJ A全中ホームページ (<http://www.zenchu-ja.or.jp/>) もご覧ください。

中家会長 11月定例会見 会長からのメッセージ

中家会長は11月8日、理事会終了後、定例会見を行いました。「理事会では『30年産および31年産以降の水田農業対策に関する政策提案』などを決定し、その後、吉川貴盛農相に要請を行いました。12月30日に発効するTPP11に関して、生産者が不安にならないよう、政府には万全の対策を求めています」と冒頭のあいさつを述べました。

10月15日時点の全国の米作況指数は99で、日照不足や台風被害などの影響で前回（9月15

日）から低下し、当面の米の需給は均衡する見通しですが、今後、人口減等による需要減少が想定される中、大切なのは需要に応じた生産です。31年産以降も、生産者が安心して米生産に取り組めるよう、政策提案に基づき、農水省の食糧部会で発信してまいります。

生産者が意欲を持って生産に取り組むことが食料安保の第一歩と考えます。J Aグループの自己改革においても、農業生産拡大が最重要事項の一つで、食

料安保の確立に向けて全力を挙げて取り組んでまいります。

TPP11や日米TAG交渉では、TPPなど過去の経済連携協定の水準以上の譲歩をしないことは明確に確認されています。政府には、そのことを踏まえて断固たる姿勢で交渉に臨んでもらいたい。

生産現場の労働力不足に関して、外国人労働者の受け入れ拡大は対策手段の一つです。さまざまな問題が存在する中、まずは安心して地域で暮らせる労働環境を整備することが大切です。

会長メッセージはJ Aグループのウェブサイト (<http://org.ja-group.jp/message>) に掲載しています。

「実りのフェスティバル」に出展 都会の消費者にお米をアピール

11月2～3日、都内で開催された第57回農林水産祭「実りのフェスティバル」にJ A全中ブースを出展し、都会の消費者に日本のお米と農業の魅力をアピールし、約1,000人の来場者でにぎわいました。

ブースでは、ペットボトルと割り箸、すり鉢など身近な道具を使った「お米の脱穀、もみすり」の体験をはじめ、米粉を使ったホットケーキや、カレー（華麗舞）とすし（すし飯）の用途別米の試食が好評でした。

お米のミルクやこめ茶、玄米茶など米関連商品の展示や、お米がどのように栽培され店頭並ぶのか、過程をパネルで掲示し、クイ



ズ形式で伝えました。また、秋篠宮ご夫妻が会場を訪れ、J A全中ブースを視察されました。

J Aグループウェブサイト「JAあぐりタウン」を開設

J Aグループウェブサイトにも子供向けコンテンツ「JAあぐりタウン」を開設しました。

J Aの食農教育の現場でも活用してもらうため、家の光協会と連携して、過去に制作して好評だった刊行物の復刻、リニューアルを含

め、子どもたちが楽しく学べるよう工夫したコンテンツが満載です。

メインコンテンツは、「食料」「農業」「J A」に関するお話（各8本）を丁寧に解説しています。

サブコンテンツは、動画「ごはんちゃん いっしょにごはん」、デジタル紙芝居「たべものさん ありがとう」（写真）、書籍「お米が実った！ぼくらはみんな稲作名人」、ゲーム「やさいしんけいすいじゃく」



「おりょうりしよう」「しゅんのやさい・くだものぬりえ」などです。

「JAあぐりタウン」
<https://life.ja-group.jp/agritown/>

【週刊新潮】で好評連載中の中家会長のコラム「ピンチをチャンスに！」の第21回（11月8日号）、第22回（11月22日号）、第23回（12月6日号）掲載分は、『月刊JA』のHPからもご覧いただけます。